

平成31年度 授業改善推進プラン

第1学年 数学科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・与えられた問題集の課題を期日内に完了し、満点評価を受ける生徒の割合が全体の72%であった。
- ・1学期授業アンケートの「あなたは、授業の予習・復習をしていますか」の項目で「どちらかといえばいいえ」または「いいえ」を選択した生徒が全体の30.9%であり、日々の予習・復習を定着させる必要があると感じた。
- ・考査前に復習をしているが、日々授業の内容を復習している生徒は全体的に少ない。
- ・期末考査の各観点別の正答率は、知識・理解が79.2%、技能が70.9%、見方・考え方が63%であり、基礎的な計算能力はおおむね身につけているが文章問題を苦手とする生徒が多い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

〈課題〉

- ・基本的な計算能力を身に付けさせる。
- ・提出物に関して、課題のある生徒がまだ多いため、提出物に対する意識を改善させる。
- ・問題の文章読解を苦手とする生徒が多い。(割合や速さの問題)

〈対応策〉

- ・授業の内容の振り返りとして宿題で教科書と準拠した問題集を活用する。
- ・日々の授業で自分の解き方を他の生徒に説明し合わせる活動を取り入れる。
- ・小学校段階の内容を確認させた後、文字を使った割合や速さの文章問題に取り組ませる。

4 具体的な授業改善策

- ・毎時間の授業のねらいを板書で示し、見通しをもって授業に取り組ませる。
- ・定期的に基礎的な内容の確認テストを行い、自分の学んだ事を明確にさせ、自信を与える。それを踏まえ授業ごとに課題を出し、**基礎学力の向上**を図る。さらに、テストの結果を通じて、生徒のつまづきやすい箇所を把握し授業改善を行う。
- ・授業内では、スモールステップで例題を解くことで、練習問題を自力で解く力を身に付けさせる。
- ・授業ごとにまとめの時間を必ず確保し、授業内容の理解の確認と定着を図る。
- ・問題を日常の事象と結びつけて扱うことで、生徒の興味関心を引き出し、**学習意欲**を向上させる。
- ・授業の中で生徒同士に教え合いの時間を与え、表現力を育む。

第2学年 数学科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査や児童・生徒の学力向上を図るための調査からの分析>

- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果は、教科の内容については 54.5%、「知識・理解」については 65.5%だった。特に教科の内容の「思考・判断・表現」の項目は 27.6%であり、この部分の力を付けさせることが今後の課題である。
- ・定期考査の結果から、正答率が3割未満の生徒の割合は1学期中間 7.7%・期末 26.2%であった。夏休み明けテストでは、正答率が3割未満の生徒の割合が 5.9%となり夏季休業中の宿題や補習教室の効果が見られた。8割以上の生徒の割合も1学期中間 31.0%・期末 8.7%に対して夏休み明けテストは 52.0%と増加している傾向にある。
- ・授業前に教科書やノートの準備はほぼできている。
- ・話し合い活動にはやや抵抗感を示している。
- ・1学期は毎週課題提出を行っていて、提出の割合は平均 8割程度であったが、出さない生徒は毎回同じような生徒であった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・提出物を出せない生徒やしっかり完成させることができない生徒がいるため、提出物を完成させ、提出させる。
- ・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がいるため、習慣を付けさせる。
- ・自分の考えを相手に説明することが苦手な生徒が多い。話し合い活動を積極的に授業に取り入れ、説明する機会を増やしていく。
- ・基礎的な学力が身に付いていない生徒がややいるので、反復練習等を通して基礎的な学力を身に付けさせる。

4 具体的な授業改善策

- ・毎時間の授業の流れを明確化することにより、数学の時間の取り組み方を定着させる。
- ・授業開始時には、1年生からの基本的な知識・理解や技能の定着を図るために、**5分間ドリル**に毎時間取り組む。
- ・**授業のめあて**を明確にすることで、見通しをもたせ安心感をもって授業に取り組ませる。
- ・反復練習プリントを作成し、授業内で行い基礎的な学力を身に付けさせる。
- ・授業内では、スモールステップで説明し、発問を精査することで**自力解決する時間**を多くとる。
- ・説明する機会や自分の考えを相手に伝える等の話し合い活動を授業で積極的に取り入れる。

第3学年 数学科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査や平成31年度全国学力・学習状況調査等からの分析>

- ・授業を受ける態度は、2年生の時よりも落ち着きが見られ、問題を自力で解こうとする生徒が増えた。
- ・全国学力・学習状況調査で、「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」項目では全国の正答率と比べて+8.7ポイントだったが、「四角形 ABCD がどのような四角形であれば $AF=CE$ になるのかを説明する」項目では全国の正答率と比べて-3.ポイントだった。知識は身につけているが、文章で説明する能力を高める必要がある。
- ・定期考査の結果から、正答率が3割未満の生徒の割合は1学期中間 1.8%・期末 8.5%であった。正答率が8割以上の生徒の割合は1学期中間 36.0%・期末 28.8%であった。
期末考査では、中間考査で出題されなかった証明問題の正答率の低い生徒が多かった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

〈前年度よりの課題〉

- ・基本的な知識・理解を身に付ける。
- ・提出物に関して、課題のある生徒がまだ多いため、提出物に対する意識を高める。
- ・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がいるため、習慣を付けさせる。

〈今年度の追加課題〉

- ・基本的な計算問題を早く・正確に解けるようにする。
- ・授業中の内容を、時間の経過とともに忘れてしまう傾向があるので、定期的に単元テストを行い定着させる取り組みをする。

4 具体的な授業改善策

- ・毎時間の授業の流れを明確化（めあて・活動・まとめ）することにより、数学の時間の取り組み方を定着させる。
- ・全学年で、授業開始時には**5分間ドリル**に毎時間取り組ませる。
解説が必要な問題は、全体で解き方を共有する。
- ・**授業のめあて**を明確にすることで、見通しをもたせ安心感をもって授業に取り組ませる。
- ・授業内では、スモールステップで例題を解くことで、**練習問題を自力で解く力**を身に付ける。
- ・授業規律を確立するため、聞く・解く・書く・話し合う等の作業を明確にし、授業にメリハリをつける。
- ・授業の最後のまとめの時間では、**問題集**に取り組み、授業内容の理解の確認と定着を図る。
- ・**単元テスト**を多数回行うことにより、基本的な計算問題を早く・正確に解く技能を高める。